

授業科目名・形態	社会学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川 尚	開講期	1～2年 前期	単位数 2

*福祉学科必修

【授業の主題と目標】

社会全体の仕組みや変化の原理を追及しようとする社会学の視点から、人間にとっての基礎集団である家族と私たちが暮らしている地域社会を中心に現代社会の基底部分で生じている構造的な変化及び高度経済成長以後に注目された社会問題を解説する。また、現在抱えている我が国の社会問題とあるべき姿を考える視点を養うことを目的とする。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 社会学とは
- 第 2 回 社会システムとは
- 第 3 回 法と社会システム
- 第 4 回 経済と社会システム
- 第 5 回 社会変動とは
- 第 6 回 生活の捉え方、家族とは
- 第 7 回 地域
- 第 8 回 社会的行為
- 第 9 回 社会的役割
- 第 10 回 社会集団と組織、社会的ジレンマ
- 第 11 回 社会関係資本と社会的連帯
- 第 12 回 社会問題の捉え方
- 第 13 回 日本社会と社会問題
- 第 14 回 共生社会と権利
- 第 15 回 まとめ～日本社会の現状と課題～

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座『社会理論と社会システム』（中央法規）

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

出席状況及び前期定期試験により評価する。

【主な関連する科目】

社会保障論Ⅰ、社会福祉概論Ⅰ

【学生へのメッセージ】

履修者は、新聞記事等を通じて普段から社会で生じている出来事とその変化について関心を向ける習慣をつけてほしい。予習・復習を確実に実施し理解を深めていくことが大事である。

授業科目名・形態	化学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	奥野 智旦	開講期	1年～2年 前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

化学は物質の構成単位（元素・原子・分子）を理解し、物質の分析・創造から、自然の解明や文明への利用を目的とする学問である。ヒトはエネルギー、医薬品、栄養、構造素材、生活用品等で化学物質を利用している。この授業では、化学の基礎を復習しながら、我々の生活に密着する代表的物質を取り上げ、現代物質文明を化学という学問領域から理解し、各自の教養となることを目的とする。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 原子力エネルギーとは：原子・分子・元素の種類・放射性同位元素
- 第 2 回 ウランからどうしてエネルギーが生産されるの？・核分裂反応
- 第 3 回 原子力発電の仕組み・安全性・危険性と問題点
- 第 4 回 電池による電気エネルギーの生産：電極での酸化・還元反応による電子移動
- 第 5 回 太陽光や水素から電気エネルギーを作り出す太陽電池・水素燃料電池
- 第 6 回 プラスチック(ポリマー)の種類と多様な機能・用途
- 第 7 回 プラスチックの化学合成, 天然高分子と合成高分子
- 第 8 回 工業・生活廃棄物や温室効果ガスの排出による地球環境への影響
- 第 9 回 薬と化学：有機化合物の構成元素と部分構造・官能基
- 第 10 回 有機化合物の反応
- 第 11 回 西洋医薬・漢方薬, 天然物から薬の発見・化学合成による薬の開発
- 第 12 回 ドラッグデザインとは, 様々な薬（性ホルモン・鎮痛剤・麻薬）と化学構造
- 第 13 回 食品に含まれる元素・3大栄養物質（炭水化物・脂肪・タンパク質）
- 第 14 回 ビタミン・ミネラル, 食品から得られる代謝エネルギー
- 第 15 回 食事の量と質, 肥満と病気, 世界の食料事情, 食品保存剤

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

「実感する化学, 生活感動編」(下) (NTS)

【参考文献】

「教養の現代化学」(三共出版), 「実感する化学, 地球感動編」(上) (NTS)

【成績評価方法】

出席状況・小テスト・期末テストの総合評価

【主な関連する科目】

【学生へのメッセージ】

食品をはじめ、身の回りのすべてが化学物質である。化学を理解して安全に賢く、21世紀を生きよう